

暮らしよい静岡を支える人を知る

# しずおか 自治会マガジン

## 自治会・町内会

# 防災特集

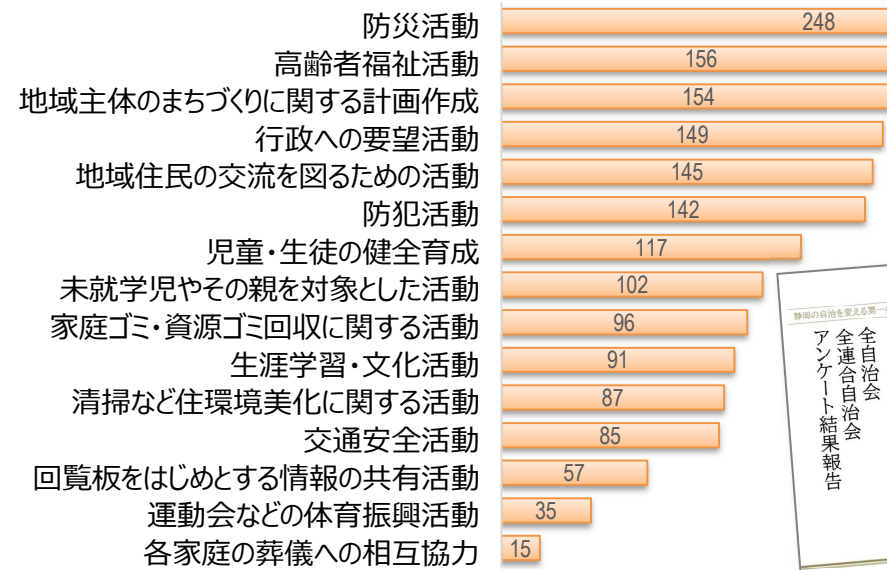


令和4年台風15号は、静岡で404.5ミリの12時間降水量を記録し、観測史上1位になりました。近年、「ゲリラ豪雨」のように、予測が難しい災害が起きています。このような災害に備えるために、市内で防災に力をいれている自治会・町内会の事例を特集します。

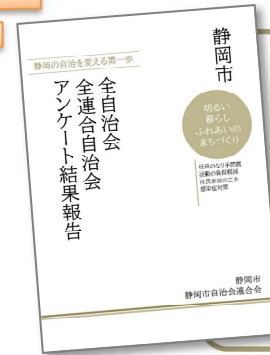
令和2年度 静岡市全自治会・全連合自治会アンケート結果から

## 一番力を入れたい活動は「防災活動」、そして防災には連携が重要！

「令和2年度 静岡市全自治会・全連合自治会アンケート」では、代表的な活動について現状と意向をたずねました。  
今後力を入れたい活動は何ですか？(単位自治会)



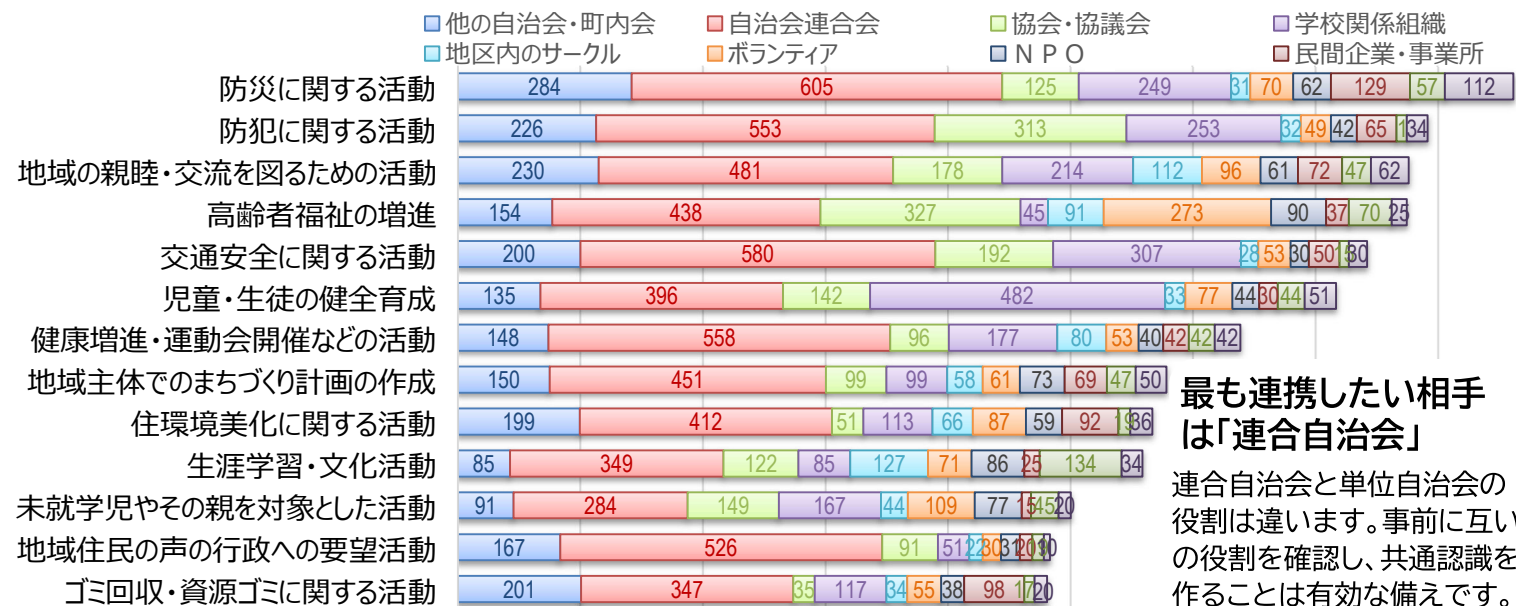
**4人に1人の会長が「防災」に注力したい**  
令和4年台風15号を予想していたかのように「防災」は単位自治会にとって最も力を入れたい活動で、2位以下の活動を大きく引き離す結果となりました。



令和2年度に実施した「全自治会・全連合自治会アンケート結果報告」は静岡市のホームページにて公開中です。右記のQRコードからもご覧いただけます。



## 新しく連携したい活動、連携相手は何ですか？



## 最も連携したい相手は「連合自治会」

連合自治会と単位自治会の役割は違います。事前に互いの役割を確認し、共通認識を作ることは有効な備えです。



# 地域は異なる！だからこそその防災対策

「防災」といっても、市街地、海岸沿い、山間地など地理的特性によって、また人口規模によっても備えることが違います。組織も「自主防災組織」がある地域もあれば、「自治会」が担う地域もあります。そして、住民の居住年数や高齢化率はもちろん、マンションなのか戸建てなのかといった居住形態によっても備えることは異なります。各地域の「違い」を前提とし、必要とされることを備えている取組をご紹介します。

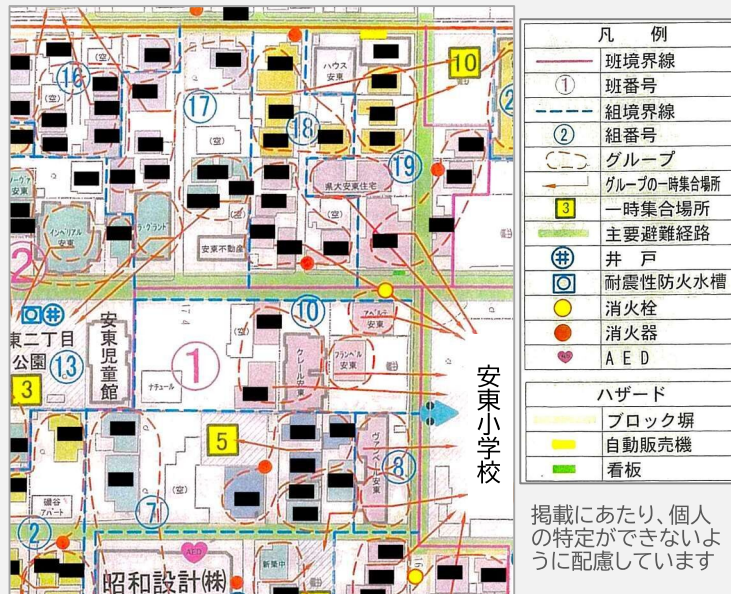


## 葵区安東北部自治会 オリジナル防災MAPで見直し

【人口】約950名【世帯数】約318世帯

安東北部自治会は令和3年に、地域防災の見直しを実施しました。当時、地区内に事務所を構えていた昭和設計(株)の協力を得て、地域の実状を反映したオリジナル防災マップを作成しました。

マップには、組の境界線や避難グループを明示。5名の防災役員が歩いて、ブロック塀や看板、自動販売機の設置状況などを調べ、井戸や消火栓、消火器などの場所とともに記載しました。そして、昭和設計(株)のアドバイスをもとに、各家からの避難ルートを示しました。出来上がったマップはA3サイズにカラー印刷をしラミネート加工をして、全戸に配布をしました。



その後、このマップを活かした防災訓練を行います。地区を組や班より小さな4~5軒ずつの、60のグループに分けます。そして、ひと月かけてグループごとに個別の避難訓練を実施しました。訓練では、最寄りの避難場所に集まり、安否確認をします。その後、オリジナル防災マップの避難ルートを通して、避難所へ行きます。到着した避難所の小学校では、各グループが実際に避難ルートを歩いて気づいたことを聞き取り、マップ更新の際に反映しました。避難訓練には、思ったより多くの住民が参加してくれたそうです。



実際に隣組で避難ルート歩いてわかった気づきを共有します。

組より小さな4~5軒を、避難訓練のグループにわけたのは、山村邦夫自治会長が日ごろから、地域づくりには「向こう三軒両隣」が大切だと思っているからなのだそうです。さらに発災時には、「遠くの親戚より近くの他人」だと感じているので、近所の小さなグループで避難することで、災害に備えることができると考えたそうです。その翌年もグループで避難をする訓練を行ったり、県の防災センターを訪問するなど、工夫をこらした防災訓練を重ねています。その影響なのか、防災に限らず、自治会の行事に理解を示して、参加してくれる住民が増えているそうです。



**ここが POINT** 専門家の力を借りてマップを作成したことで、より実践的な情報が掲載されている

- ・数軒の小さなグループに分けて掲載し、訓練を行ったので、住民に当事者意識が芽生えやすい
- ・マップを全戸に配布した
- ・マップを活かした防災訓練を行い、住民にマップの使い方を知ってもらった
- ・住民の気づきを聞く場所を設けて、反映している
- ・マップを作ったあとも更新している

地域の防災マップ作成やマイタイムラインの作成については、各区の地域総務課の地域防災係がサポートをします。各区の担当者へご相談下さい。

## 駿河区サーパス草薙運動場前自治会

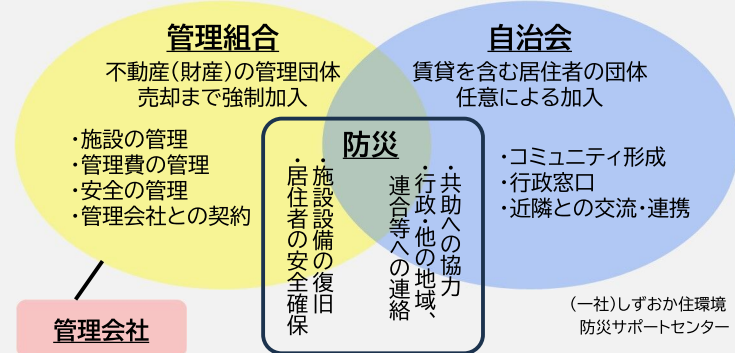
### マンション防災

【人口】152名【世帯数】68世帯

68世帯が加入するサーパス草薙運動場前自治会(以下、運動場前自治会)は、集合住宅という特性から、1マンションで1単位自治会として独立し、自主防災組織としても活動しています。自治会と別に防災組織を作らなかったのは、管理組合もあるため、これ以上負担を増やしたくなかったと、濱田晴子自治会長は言います。

大規模災害発生時は、管理会社が複数の物件を担当していたり、情報や交通の不通も想定されるため、外部からの迅速な支援は期待できないと想定しています。分譲マンションのような集合住宅は、自治会以前に、区分所有者(マンションの1戸を所有する人)がその住環境整備と資産価値の維持のために、全員加入しなくてはならない「管理組合」が存在し、所有者による理事会が運営を行っています。当初、運動場前自治会は、理事会と同じメンバーが自治会を運営していましたが、続けるうちに両立が難しいことがわかり、現在は主にソフト面の自治会とハード面の管理組合とに分かれて運営しています。

【サーパス草薙運動場前自治会の運営構造】



防災における集合住宅の単位自治会の利点は、主に三つあると言います。一つ目は、地域とつながること。災害時には一時的にマンションに立ち入れなくなる、駐車場が冠水するなどが想定されます。その際に人や車の避難先やその調整を近隣自治会へお願いしたり、逆に地域の行事へマンション住民が参加することも可能になります。運動場前自治会は、連合自治会の行事に参加したり濱田会長が、連合自治会の防災を担当するなど、互いに協力しています。二つ目は自主防災組織として市の

助成を受けて、有事に備えることができます。運動場前自治会は、会議用簡易テーブルやイス、扇風機などを購入し、備えています。三つ目は、自治会は居住者なら誰でも任意で加入できることです。分譲マンションには、区分所有者から借りて住んでいる賃貸の住民もいます。賃貸の居住者がマンションの自治会に所属すると、マンション内の活動や防災、防火について知り、一緒に備えることが可能になります。

運動場前自治会は、管理組合の総会で承認を得て、組合が有事に備えて作成している要支援者を把握するためのオリジナル「安心カード」の情報を共有し、活用しています。マンション独自の防災訓練として、どこに支援者がいるのかを可視化して住民で話しあったり、避難生活をイメージするために、1階から水を運んでみる、防災倉庫の開錠をシミュレーションする、防災設備をめぐって確認するなどの訓練を行っています。防災訓練は各階ごとに行いますが、合計100人は参加するそうです。



(上)支援が必要な世帯ハシールを貼って、要支援者を可視化します。  
(右)マンションのエントランスを使った訓練

マンションの所有者は、自身の資産である物件を他の所有者の住民と話し合い、考えていくことが、必要になります。これを理解し、考えることがより安全安心な集合住宅の暮らしを作っていくのだと濱田会長は言います。



**ここが POINT** 住民の入れ替わりがあるので、「安心カード」は管理組合の協力を得て毎年更新

- ・管理組合と自治会の役割分担を明確にして、互いの長点を活かすことで、災害時の備えをより強いものにできる
- ・管理組合では施設面を主に担い、自治会は主にコミュニケーションの場として、必要性を理解してもらい、日常的にゆるくつながることが大切

## 防災訓練

こんな工夫をしています！

- ・黄色旗の掲示の様子を写真で撮影しています。後日報告書としてまとめて、回覧板で住民と共有し、連帯感を生むようにしています。(葵区東草深町二区自治会)
- ・消防団と連携して訓練をしています。(複数自治会)

- ・コロナ前は芋煮会や焼きそば、野菜販売など、人が集まる工夫をしながら防災訓練をしていました。(清水区元城町自治会)
- ・コロナ禍は、地区内の防災ポイントをまわるスタンプラリーを開催し、多くの子どもや保護者が参加をしてくれました。(駿河区丸子新田自治会)



毎年、更新している「静岡市避難行動要支援者名簿」は何のためにあるの？

公助のための名簿ではなく、自主防災組織など、住民が主体となって要支援者を支援するために作成している名簿です。地域の自主防災組織などが、高齢者や障がいのある方など、災害時の避難の際に手助けを必要とする方の支援をしやすくするための名簿です。地域の助け合いによって、災害時の被害を減らすことを目的としています。



**葵区安東三丁目自治会**  
**要支援者情報と個別避難計画**

【人口】1207名【世帯数】538世帯

安東三丁目自治会では、防災を担うにふさわしい方3名を防災リーダーとして任命しています。会長や福祉関係者と避難行動要支援者名簿を活用し、個別計画を作成するなど、災害時に備えています。

脇田征一郎自治会長は、約10年前、自治会長就任を機に、地域の方に正しい防災の情報を伝えられるようにと考え、「静岡県ふじのくに防災士」の資格を取得しました。災害の基本は自助ですが、どうしても自助ができない方がいます。しかも、要支援者によって必要とする支援も異なります。どうしたらよいのかを考えると、優先順位をつけて、必要なら個別計画を作成する必要がありました。さらに、要支援者から情報を集めているのだから、要支援者へフィードバックをすることも必要だと脇田自治会長は言います。

要支援者との接点は、民生委員や組長であることが多いことがわかり、支援を検討し始めると専門的な知識が必要になり、地域包括支援員やケアマネージャー、福祉委員などの協力が不可欠なことがわかりました。そこで、安東三丁目自治会では、防災リーダーや、要支援者に関係する人を集めた避難行動要支援者会議を毎月行うようになりました。



会議では、発災時に、要支援者がどのような支援が必要なのかを整理します。

集まった要支援者情報を、要支援者が必要とする支援のレベルで分けます。自力で避難ができる、車いすが必要、介助者が必要、専門とする人の支援が必要などです。そして、民生委員や地域包括支援員、ケアマネージャーなどの情報と照らし合わせて、現状を確認し、

必要な住民には個別避難計画書を作成しています。要支援者は数カ月で変化を生じることもあるので、毎月の会議は欠かせません。個別避難計画書は安東三丁目独自の書式を作成し、必要な物品や支援、避難ルートなどを掲載してあります。

計画を作成すると、最も問題になるのが、「発災時に一体誰が支援をするのか」でした。支援される人の中には支援者が限定される人もいます。必要に応じて、支援する方にお会いして、確認することも行います。さらに、支援をしてくれる方がいない場合は、希望に応じて、支援できそうな方を探し、お願いすることもあるそうです。

大規模災害発災時には、組長は安否確認や他の住民の対応に追われる可能性や、予定の支援者が動けないこともあります。会議で「S救セット」の活用案が出たので、現在は、「S救セット」の確認と普及を進めながら、「個別避難計画書」を「S救セット」に入れることを始めています。

【「安東三丁目自治会 個別避難計画書」の内容】

- ・基礎情報(氏名、年齢、血液型、連絡先、住所)
- ・緊急連絡先
- ・避難支援者(相互の同意が必要)
- ・福祉避難所の希望の有無
- ・心身状態
- ・配慮事項(避難時、避難所、携帯すべきもの)、留意事項
- ・避難手段(徒歩、車いす、車、ほか)
- ・誰が避難時に支援をするのか(家族、支援者、本人、ほか)
- ・必要な用具(歩行器、杖、医療器具、ほか)
- ・避難場所・避難経路
- ・自宅の間取り
- ・担当ケアマネージャーやかかりつけ医療機関
- ・記載内容を確認をした人



S救セットとは…  
要支援者が生命の危険のある緊急時に必要な支援を的確に受けるための情報を記して保管する容器のことです。静岡市は緊急時に救助者が確認できるように、冷蔵庫での保管を推奨しています。無料で配付されています。

脇田会長は、「個別避難計画」は、支援者を決めるためにあるようなものだと思います。かえせば支援者を決めないと進まない。そして、計画には支援される人が発災時にパニックにならないよう安心してもらう要素も必要だと言います。今後は要支援者の訓練への参加も検討していくとのことでした。

「共助」には、向こう三軒両隣、単位自治会、連合自治会などがあります。さらに、地元企業や学校との連携を含むこともできます。内閣府の防災白書によると、阪神・淡路大震災の時に公助で救助された方は全体の約23%で、家族や近隣住民によって救助された方が約77%でした。予測できない災害に備えるためにも、手段や人を限定せず、広く柔軟に、多様な支援を重ねて備えることが有効です。

**駿河区弥生町自治会**  
**地域のことは地域で**

【人口】約70名【世帯数】28世帯

駿河区弥生町自治会は、28世帯約70名の単位自治会で、3つの組に分かれています。特徴は戦後からあまり人の入れ替わりがないことで、今も日常的にお互いの顔が見える関係性が保たれています。多くの人が当然のように互いを手伝い、何かあれば集まることができています。しかし、高齢化率は70%を超えています。(弥生町自治会調べ)

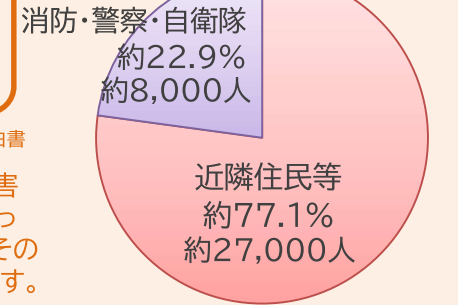
令和4年台風15号の際には、およそ半数の15軒が床上や床下の浸水被害に遭いました。島俊和自治会長は、高齢者世帯を把握しているのも、困っていそうなお宅を一軒ずつ回って困りごとを聞き取り、リヤカーや一輪車を使って被災したお宅の災害ごみの片付けを手伝いました。

被災したお宅が片付けはじめると、周囲の住民が、畳が重そうなら手を貸し、必要なものがあれば貸し出すといった、昔ながらの風景が弥生町自治会では見られたそうです。

島会長は、市が委託する業者に水路の脇にたまった泥の撤去をお願いする予定でしたが、住民から「やっちゃおう」という声があがり、あっという間に10名以上の男性が集まり、自分たちで片付けてしまったそうです。規模が大きなくても、高齢化率が高くても、顔が見える関係が構築されていれば、できることも多く、復興が早いだらうということがわかる事例です。



**阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数**



【出典】令和4年度版内閣府防災白書

阪神・淡路大震災の被害は、建物の倒壊が多かったと言われています。その救助の主体のデータです。

**共助** こんな工夫をしています！

**基本を大切に**  
高齢者世帯や独居高齢者世帯を隣組で確認する訓練をしています。組長が避難が必要な人に声をかけ、安否確認をして報告するという基本を大切にしています。(駿河区中原自治会)

**立地から想定される被害へ備える**  
津波の被害が想定されるので、近隣病院と、備蓄用品の貸与や地震発生時の避難場所の提供について提携しています。(駿河区広野町内会)

大雨の際に浸水しやすいので、近隣スーパーの駐車場を借りるのをお願いをしています。結果、令和4年台風15号の際には、事前に把握してあった浸水しそうな家を周って、約40台の車両を避難させることができました。(葵区長沼一、二、三丁目町内会)

**企業が得意とすることを教えてもらい備える**  
建設会社と提携を結び、集会所の屋根にブルーシートをかぶせる訓練を実施しました。その他、復興のための資機材の貸与についてもお願いしています。(葵区上足洗三丁目自治会)

**ここが POINT**

- ・「共助」の相手は自治会・町内会の住民に限らず、近隣企業や学校などもある
- ・企業などは企業が得意とすることを活かせる内容だとより有効な共助へ結びつく
- ・企業などとの共助には、会議に参加した際に承諾を得るような簡単なものから、協定書を交わすまで 様々な幅がある。互いに無理のない範囲で行うのもポイント
- ・自分の地域の被害想定が明らかになっていると、具体的かつ効果的な共助を実現できる



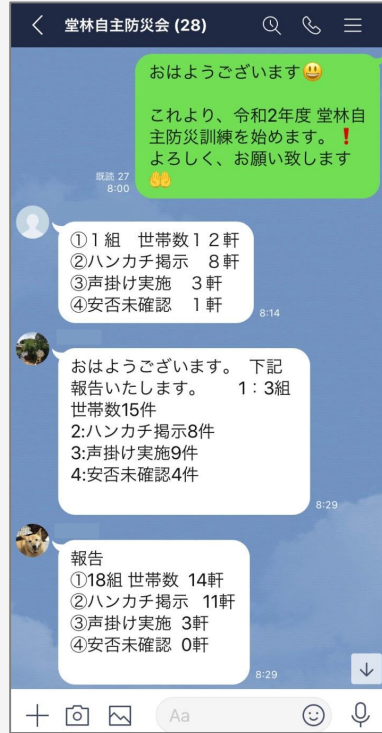
## デジタル技術を使って訓練

### 清水区堂林自治会

#### LINEで防災訓練

【人口】約1200名  
【世帯数】約380世帯

市内でデジタル技術の活用をいち早く始めた堂林自治会は、LINEのグループによる防災訓練を実施しています。平成20年頃、前自治会長が、①訃報などの迅速な連絡体制の確立、②回覧の利便性向上、③自治会活動の情報発信、④住民の意見収集、この4つを目標に掲げて、自治会活動のデジタル化を進めました。ただし、会長自身が担うのではなく、得意な人を地域で探し、推進しました。若手の齋藤統也さんと鳥井浩平さんをお願いをして、二人が活動しやすいように「IT委員」という役職も設置しました。IT委員が定着したころ、齋藤さんは自主防災組織の役員になりました。そして、新型コロナウイルス感染症が流行り、対面で防災訓練を行うことがはばかられるようになりました。そこで、齋藤さんは、LINEのグループを使っ



た安否確認訓練を発案します。事前に組長や自主防災会役員で、LINEのグループを作り、当日、組長や防災委員は、住民が掲示している黄色旗の現状を確認して、その結果をLINEのグループで報告します。それを自治会館の本部が集計して、報告完了となる訓練でした。LINEのグループを使うメリットは次のとおりでした。

- ①組長や防災委員が自治会館へ来なくても報告ができる
- ②瞬時に多くの人と情報が共有できる
- ③情報が正確

災害時などには、迅速に正確な情報を共有することが何よ



堂林自治会のIT委員によるスマホ教室の様子

りも大切です。その後も、LINEのグループを活用した安否確認が毎年行われるようになりました。非常に便利なデジタル技術ではありますが、なかなか使いこなせない方がいるのも事実です。そこで堂林自治会では、IT委員が、高齢者向けのスマホ教室を開催したり、スマホの使い方をDVDにして、希望する住民に貸し出すことも行っています。

大規模災害発生時は、何が起るかわかりません。連絡手段は複数確保することが有効になります。デジタル技術の活用も重要ですが、あわせて多くの住民がその手段を使えるようにする工夫も欠かせません。

若手職員が行く！

## 気になるあの自治会を訪ねてみました！

寺田町内会 (長田西自治会連合会)

世帯数：801世帯  
人口：約1,729人  
高齢化率：31.4%  
(令和4年3月時点 町内会調べ)

### 25年ぶりに連合自治会へ再加入した寺田町内会へお話を伺いに行きました！

単位自治会だけでは情報量が少ない？！

Qなぜ連合自治会に入っていなかったのですか？

25年以上前の話になりますが、当時の寺田は、世帯数が多く、地域内の交流が盛んでした。寺田だけで祭りや行事、さまざまな活動が活発に行われていました。そのような理由で、寺田だけで活動ができていると考えていたようです。

Qなぜ再び加入することになったのですか？

民生委員も担当しているのですが、他の町内の方と関わる機会が増えるにつれ、寺田町内会の情報量が、思う以上に少ないことに気づきました。特に災害時は、市からの連絡はまず連合自治会へいきます。発災時に町内会として住民に伝えられる情報が少ないことは、役員はもちろんですが、寺田町内会の住民が困るのではないかと不安に感じたのがきっかけです。さらに連合自治会や他の町内会のイベント情報も入ってこないの、寺田町内会の住民が他の地域のイベントに参加しづらくなっていたり、せっかく参加できても、連合自治会に加入していないのでどこか遠慮してしまったりすることなどもありました。寺田町内会の子どもたちに、自分たちのような気持ちを感じて欲しくなかったので、再加入に向けて動くことを考えはじめました。

住民へ丁寧に説明することで理解促進

Q再加入に際して大変だったことは何ですか？

再加入について、住民に理解し、納得してもらえるように説明することが大変でした。町費の値上げもあったので、住民との話し合いの場を何度も設けることで理解してもらえるようになりました。最後は総会で投票を行い、賛成多数により、連合自治会への再加入が決定しました。

インタビューを終えて…

今回、高橋会長にお話を伺い、住民との話し合いを何度も設け、意見を汲みながら進めたことが連合自治会への加入に繋がったのだとわかりました。今回のような事例に限らず、地域の課題に向き合い、解決していくためには、大きなエネルギーを必要とします。インタビューの中で、高橋会長が、「寺田に住んでいるからこそ、安心して生活ができると、住民に言ってもらえるような町内会を目指したい。」と話していて、地域をよくしたいという思いが、自治会活動においてとても大切なことなのだと感じました。



聞いた人  
市民自治推進課  
山田拓海

答えた人  
寺田町内会  
高橋榮会長

再加入で住民の交流が増えました

Q連合自治会へ再加入してどうでしたか？

情報量の多さと情報が手元に届く速さが違いました。連合自治会の会で今まで入ってこなかった学区や駿河区の情報も知りえるようになり、寺田の住民へ発信することができるので、不安だと思っていた部分を解消することができました。特に防災面の変化が大きく、避難警報が出た時には、以前より多くの情報がすぐに入ってくるのでよかったです。さらに、防災訓練を連合自治会と合同で行えるようになったことで、訓練の質が向上し、より有効的なものになったと感じています。

Q住民の皆さんはどうですか？

連合自治会の情報網を使ってより広く情報発信ができて、逆に他の地域の情報も入ってくるので、他地区の住民との交流が増えて、寺田町内会の住民が、より多くの行事に参加できるようになりました。今までは、どこか遠慮がちに参加していましたが、気兼ねなく話せるようになり、交流の輪も広がって、長田西自治会連合会の活動へも参加しやすくなったようです。

再加入により自治会活動への理解が高まる！

Q再加入による影響は何かありましたか？

連合自治会に再加入したことで、住民への情報供給量が増えたり、活動のノウハウを持ち帰ることもできたりするので、以前より、町内の住民が、町内会の必要性を感じているようです。連合自治会が、地域が必要としていることを前向きに行っているの、単位町内会の活動も住民の信頼を得ることができるのだと思います。連合自治会に再加入できたことで、連合自治会はもちろんですが、単位町内会の必要性も再確認できたように思います。

## 防災をきっかけに自治会活動へ

### 葵区寿町一区自治会

#### 防災は自治会活動の入口

【人口】1270名  
【世帯数】540世帯

寿町一区自治会では「防災部員」という役を作り、50代を中心とする40～60代の住民が、30人ほどで、単位自治会の防災活動を行っています。主な活動は、防災訓練の際の放水訓練や、12月の夜や元旦に行う火の用心の見回りです。祭りや運動会の際にテント張りやライン引きなどの設営準備を行ったりもします。最近は、高齢者世帯や独居高齢者世帯が増えているため、民生委員の協力を得て、自治会長や防災部長が、寿町一区オリジナルの要支援者マップの作成も行いました。担い手不足が悩まれる地域活動ですが、寿町一区ではこの防災部員を担うことが、結果的に自治会活動への理解を深めることになり、のちに自治会の役員になってくれることへつながっているそうです。

夏祭りや運動会のようなイベント開催時に、若い男性を中心に防災部員の勧誘を行います。意外と多くの方が承諾してくれるそうです。自治会役員だけでなく、防災部員も一緒に、みんなで様子をみながら声掛けを行っているのがコツのようです。地域活動を通し、なんとなくつながりがあるので、悪いところではないと感じてくれることも理由ではないか、そして、今後も長く住み続けることを考えると、入っておいたほうがいいと考える方は少なくはないようです。宮崎寿弘自治会長自身も子どもが小学生の時に参加した運動会で声掛けをされ、防災部員になり、その後自治会活動に参加。現在は自治会長を務めています。

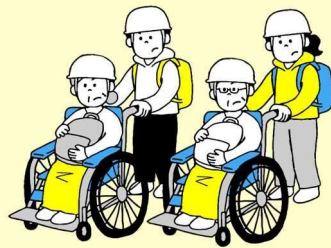




## 防災の疑問！ 避難所運営は誰がする？

避難所は、発災当初は自主防災組織が主体となって立ち上げを行い、その後、適宜避難所・利用者による避難所運営組織に体制を移行することになります。一方で、市の担当職員は物資の供給や情報収集など、避難所運営の支援を行います。

災害時に円滑な避難所運営を行うためには、避難所運営組織として、「避難所の管理」、「生活ルールづくり」、「物資の供給」、「衛生管理」などの業務を分担して行うことが必要で、日頃から役割分担を認識しておくなど、施設管理者や市との十分な連携が重要となります。



### 静岡市人材養成塾 地域デザインカレッジ2023 自治会・町内会編

#### 全国でもめずらしい 自治会・町内会の人材育成講座

静岡市は、自治会・町内会を主とする地域の課題解決に取り組む人を育てる「人材養成塾 地域デザインカレッジ」を開講しています。自分の地域の人口推移や高齢化率、転入率、人口予測などを算出し、数字で地域の現状を把握。今後について調査や計画を実行します。受講者全員が自治会・町内会の会長や役員のため、日ごろの活動の悩みについて話に花が咲くことが多々あります。



各受講生の自治会・町内会の人口減少率や高齢化率、転入率など、さまざまなデータをグラフにして可視化します。他の地区と比較し、自分の地域を客観的に認識することで、課題への理解が深まります。

継続受講者が増えているので、取り組みの質も高まりつつあります。12月の公開報告会では、この半年で学び、実践した内容を報告します。お誘いあわせの上ご来場ください。

#### 「地域デザインカレッジ」公開報告会

日時：2023年12月23日(土)13:00～17:00

場所：アイセル21

申込方法：今年度はオンラインによる視聴も可能です。詳細は右記のQRコードか下記リンクからご覧ください。

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/000997588.pdf>



#### 今年度の取組

##### 秋山町自治会

2年目の受講。自治会の必要性について、防災、公民館施設の在り方、活気と透明性をテーマに取り組む。

##### 殿沢二丁目自治会

急傾斜地や空き家の管理について対策を検討。自治会だよりやSNSによる情報発信も積極的に実施中。

##### 広野町内会

町内で5年目の受講。活動の担い手不足を打破し、次世代を巻き込むための仕掛けを準備中。

##### 森下町自治会

自治会活動への関心を高めるために、デジタル技術を用いた情報発信を調査中。

##### 馬走るリヶ丘自治会

交通弱者のための移動手段確保に取り組む。ヒアリングを主とする実態調査からスタート。

##### 東源台学区自治会連合会

連合自治会の防災を手始めに、ゆるく支え合える地域づくりの推進に取り組む。

##### 丸子新田自治会

住民の防災意識の向上を目指す。自助力を高めるために、マップによる可視化や、訓練の見直しを行う。

##### 常磐町二丁目自治会

マンション住民の自治会活動への理解と関心を高めるために、防災アンケートを実施。

##### 桜町自治会

自治会活動の見直しを検討。発災時の自治会の動きや役の見直し、活動の重複解消など、様々な視点から取り組む。

「しずおか自治会マガジン」では、静岡市内の自治会・町内会活動の、好事例や楽しい取組、頑張っている方のお話など、さまざまな情報の提供をお待ちしております。

【発行日】令和5年12月  
【発行元】静岡市 市民局 市民自治推進課  
〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号  
TEL 054-221-1265  
【企画・編集・デザイン】里山くらしLABO

【令和5年度号 付録】  
静岡市自治会・町内会  
デジタル活用ガイドBOOK  
皆さまの自治会・町内会活動に  
ぜひお役立てください。

「しずおか自治会マガジン」は、右記のQRコードからご覧いただけます。ダウンロードも可能です。ご活用ください。

